

《 松尾の100冊 》

《松尾の100冊》とは、日頃生徒一人一人に係わる本校の全職員が、生徒のみなさんにたくさんの本を読んでもらいたいということで、お薦めする本を選びました。推薦された本の一覧を紹介します。気になる本がありましたら是非、読んでください。

*現在学校にない本は、順次購入しますのでしばらくの間お待ちください。すぐにでも読んでみたい人は、東部図書館または市町村の図書館から借りてください。

*残念ながら絶版になってしまっている本もあります。そのような本は、千葉県中央図書館から借りますので申し出ててください。

*分類順・推薦者教科順

分類	書籍名(著者名)	あらすじ	推薦者
019	かーかん、はあい (俵万智)	文字を覚えた今も、息子は絵本を持って母のところへやってくる。不朽の名作からナンセンスもの、図鑑まで、子どもと読み、自身も心を揺り動かされた絵本を紹介したエッセイ。成長に応じた絵本探しの参考として、また母と子のあたたかな時間を描いた本として楽しい	中村梨先生
123	論語 [口語訳]	2500年前の古代中国に、孔子という男がいた。混濁の世にあって、栄達を乞い求め、権力を振りかざし、失脚して流浪した。その挫折体験を踏まえ、彼は後に私塾を開き、多くの弟子たちを育てる。現実の苦悩の中にあってもなお、たゆむことなく自分を磨くように励まし続ける。そこで語られた彼の言葉は、優しく、厳しい。そしてその言葉は現代にまで語り継がれてきた。	桑原先生
135	方法序説(デカルト)	「私は考える、ゆえに私はある」の命題で知られるデカルト。のちに“近代哲学の父”と呼ばれる彼は、何を指しどのような思索の果てに、革新的思想を打ち立てたのか。「理性を正しく導き、もろもろの科学における真理を探究するための方法序説」と題して出版された本書には、受動的な学問を排し、旧勢力との闘いに立ち向かったデカルトの思想が凝縮されている。読み応え充分の思想的自叙伝	田井中先生
141	「怒り」の マネジメント術 (安藤俊介)	「怒りをゼロにすること」が目的ではありません。そもそも、私たちはブツダを目指すわけではないのですから。怒りを感じてもいいのです。ただ、怒りの配分はしっかり見極めていったほうがいい。怒らなくてもいいことには、怒らない。怒るとしても、表現方法や場所を選ぶ。そのほうが人生ははるかに生きやすくなります。ムダな「怒り」は減らし、単に「怒る」という行動はやめる	芦川先生
159	時に海を見よ (渡辺憲司)	震災後にツイッターで大きく広まった校長先生の卒業生へのメッセージ「卒業式を中止した立教新座高校三年生諸君へ」。その全文を収録し、教育者であり国文学者でもある渡辺憲司校長が、新たに若い世代に向けて書き下ろした「贈る言葉」集。それは3.11後の日本を生きるための強いメッセージとなった	芦川先生
159	7つの習慣 (コヴィー・ステイブン・R)	国内200万、世界3,000万の人生のバイブル。パラダイムと原則・私的成功・公的成功・再新再生	阿保先生
159	スッキリ (上大岡トメ)	5分間で余分なものをそぎ落とす方法60!!心もカラダも生活もぜい肉をはぎ取ってみましょう。身のまわりからスッキリ!させる。頭の中からスッキリ!させる。心の中からスッキリ!させる。カラダからスッキリ!させる。コミュニケーションからスッキリ!させる	齋藤よ先生
159	自分を育てるのは 自分 (東井義雄)	私を私に育てる責任者は私(人間らしい美しい力;五千通りの可能性の中から;私も世界でただ一人の私;世界一のびりっ子 ほか) バカにはなるまい(もえさし;もえさしが気付かせてもらった;もえさしの生き方;あんないい子が ほか)	渡邊先生
159	青年の大成 (安岡正篤)	硯学・安岡正篤師が青年たちのために説いた人生の大則 昭和38年の第5回全国青年研修大会における安岡正篤師の講義をまとめたもの	渡邊先生
159	ミライの授業 (瀧本哲史)	学校は、未来と希望の工場である——。そしてきみたちは魔法を学んでいる。ベストセラー『僕は君たちに武器を配りたい』の著者が全国の中学校を訪れて開講した特別講義「未来をつくる5つの法則」のエッセンスを凝縮した一冊。未来を生きるすべての子どもたちに、そして今を生きるすべての人に贈る、筆者著作活動の集大成	加瀬先生
159	歩き続ければ、 大丈夫(佐藤芳之)	35歳で始めたナッツ・カンパニーを一大ビジネスに育て上げ、70歳を超えた今も新ビジネスに挑戦し続けるスゴイ日本人起業家	松本先生
159	さかなのなみだ (さかなクン)	さかなの世界にもいじめがある。朝日新聞で大反響。子どもから、大人まで、勇気をくれるさかなクンの感動メッセージ	滑川先生
188	歎異抄(唯円)	煩悩具足の凡夫でも救われる道はある。近代社会の合理性からはみ出す人間の情緒的な感覚。多くの日本人の琴線に触れる「代表的仏教書」の核心に迫る	田井中先生
193	聖書(共同訳)	日本聖書協会より21世紀の定番となるべく1987年に発行された聖書です。18年の歳月をかけて翻訳された本文で、カトリック教会とプロテスタント諸教会の祈りと、70人余りの聖書学者の英知の結集です	田井中先生
210	日本人の誇り (藤原正彦)	「個より公、金より徳、競争より和」を重んじる日本国民の精神性は、文明史上、世界に冠たる尊きものだった。しかし戦後日本は、その自信をなぜ失ったのか?幕末の開国から昭和の敗戦に至る歴史を徹底検証し、国難の時代を生きる日本人に誇りと自信を与える、現代人必読の書	青澤先生
281	女たちの20世紀 ・100人 (ジヨジヨ企画)	あなたに多くの友の夢を…!自分自身を欺かずに生きた人々。自分らしく生きることが、今よりずっと困難だった時代。さまざまな苦労や失意に立ち向かい、自らの生を輝かせ、私たちの歩く道を切り拓いてくれた女たちがいた…。そんな彼女たち、100人の写真と人生が語りかけるもの。きっとあなたは、勇気づけられ、励まされるはず	滑川先生
289	ガロアの生涯 (インフォルト・レオポルト)	激動のフランス7月革命を経て20歳で逝った天才数学者の生涯を、豊かな構成力とスピード感ある名訳で描く	伊藤先生

289	武器より一冊の本を ください (ウヰイナ・マツァ)	女というだけで学校で勉強する機会を奪われたくないとブログで訴え、2012年10月9日。15歳の少女が通学途中、タリバンにより銃撃にあった。少女の名は、マララ・ユスフザイ。ただただ、勉強がしたいと願う少女だった。奇跡的に生き抜くことができた一人の少女が、今、全世界に訴える。「すべての人に平和と教育を。教育こそただ一つの解決策」。銃撃されたパキスタンの少女マララ・ユスフザイの児童向け伝記。回復した彼女は国連でスピーチし、ノーベル平和賞を受賞した。	坂野先生
289	わたしはマララ (ユスフザイ・マララ)	女性が教育を受ける権利を訴えて、イスラム武装勢力に銃撃された16歳の少女の手記。世界24カ国で翻訳の話題作	松本先生
290	WORLD JOURNEY	世界の路上を歩き、世界の音を楽しみ、世界の料理を味わい、世界の酒に酔い、世界の海に溶け、世界の夕焼けにはほほを染め、世界の星を見上げ、世界の風に吹かれ、世界中の人々と泣いたり笑ったりしながら…。自由人・高橋歩&世界一周経験者20人による、おもいっきり地球を楽しむための放浪ノート	齋藤大先生
290	新TVのそばに一冊 ワールドアトラス世界・日本	世界も日本もまるごと収録した、手軽で便利な地図帳	橋本香先生
291	東京「スリバチ」地形 散歩(皆川典久)	東京は凹凸だらけ。高低差を楽しむ、まったく新しい地形エンターテインメント。見て楽しい、歩いて楽しい	堀江先生
302	日本人だけが知らない 日本人のうわさ (石井光太)	海外で語られている噂をご紹介しながら、私たち日本人がどのように見られ、語られ、描かれているのかを探っていきたいと思います。日本のスポーツやアニメやポルノは海外でいかに受け止められているのか…。それが真実であろうとなかろうと、世界で噂される日本のイメージを直視することこそが、日本のアイデンティティを考えることにもつながるのです。そして、それはあなた自身に向けられた視線でもある	山崎先生
304	日本国民の新教養	日本が弱くなったのは、「教養」が足りないから！日本に教養を取り戻せ！僕らがファミコンに夢中になっていた頃、戦前の小学生は人生を学んでいた。教養とは“生きる力”のこと。諸外国と対等以上に渡り合っていくために、現代社会をより賢明に生きていくために必要な新たな知識を1冊にまとめた。	齋藤大先生
312	悪役(ダン・オントレス)	これほど愛された政治家が日本にいるだろうか！？給料の90%を寄付し、愛車は1987年製のフォルクスワーゲン。稀代の政治家が語る政治、人生とは	松本先生
323	やさしいことばで 日本国憲法 (タミス・C・ダグラス)	国民主権、世界平和、基本的人権…憲法のもっとも大切な条文(前文、1、9条、3、9、10章)を、英文憲法をもとに中学生でも理解できるよう新たに訳出	堀江先生
323	あたらしい 憲法草案のはなし	草案は何を変えようとしているのか？立憲主義に大胆に挑戦する改憲内容を、起草者たちの主張と願望によりそって語る異色の解説書。「国民が国家をしぼる約束」から「国家と国民が協力してつくる『公の秩序』」へ。草案の提案する憲法観の大転換を、起草者たちの論理と願望にぴったりとよりそって語る	山本先生
336	はじめての ロジカル シンキング (渡辺パコ)	今までよりずっとわかりやすく話したり、説明できる。3つのステップで、伝えたいことをきちんと伝えられるようになる訓練。3つのステップを実践するだけでロジカルシンキング！「何を考えるか？」が決まらないうち、考えがまとまるわけがない！まずは、それっぽくつくってみよう！もっとちゃんと説得しよう！けっこういい感じの説得！図からいろいろなドキュメントに展開しよう！思考力のデイリーエクササイズ	崎山先生
369	老人介護 じいさん・ばあさん の愛しかた (三好春樹)	へんくつなじいさんと会話を楽しみ、ガンコなばあさんとも笑顔でつきあう—そんな介護ができる秘策は？老いに直面するじいさん・ばあさんたちの実情と、彼らを愛してやまない介護者の日常を綴りながら、現場を知る第一人者が、介護者の気持ちも楽になる全く新しい介護のコツを伝授します。「老い」とは新しい価値観との出会いです。じいさん・ばあさんとつきあえれば、老いても楽しく過ごせます	松本先生
369	おばあちゃんが ぼけた(村瀬孝生)	混沌をおそれず、この1冊でぼけを丸ごと学ぼう！「ぼけの可笑しさ、不思議さ、怖さ、美しさを通して、私たちは人間といういのちの限りない深みに触れるのです」。	滑川先生
375	ドラゴン桜 16歳の教科書	学校の勉強は社会に出て役に立つのか？なぜ大人は「若いうちにもっと勉強しておけばよかった」と言うのか？この疑問に答えるべく、研究者からエンジニア、そしてジャズシンガーまで、各界のトッププロ5人が集結した。すべての16歳と、かつて16歳だった大人たちに贈る特別講義	山本先生
377	世界へ挑む君たち (関谷武司)	世界を舞台に輝く学生たち・飛び立つための準備・世界に貢献する「グローバル人材」国際ボランティアで得るもの・未来のグローバル人材に伝えたいこと	湯上先生
377	東大助手物語 (中島義道)	他人から愛されることも、感謝されることも、尊敬されることも、評価されることも、鳥肌が立つほど嫌いになった—。それほどまでに過酷で執拗だった教授の「いじめ」とは？そして、大学とは、学会とは、どういうところなのか？“ありのまま”の体験記	松本先生
378	友だちをつくる手話 (県聴覚障害者協会)	聴覚障害について書いてあり、イラストでわかりやすく、知りたい単語が見つかるので、入門書として最適である。	芦川先生
385	作法(小笠原清信)	立つ・座る・お辞儀する。自然で美しい動作から、身体の合理的なこなし方まで	芦川先生
388	山怪(田中康弘)	山で働き暮らす人々が実際に遭遇した奇妙な体験。現代版遠野物語。	大河原さん
417	統計学の図鑑 (浦井良幸)	「小中高の統計学」から「多変量解析」、「ベイズ統計」までゼロから本格的に学べる！統計学が“まるごと”わかるビジュアル図鑑	外山先生
420	ぼくらは「物理」の おかげで生きて いる(横川淳)	「物理」を身のまわりのモノやコトを通して楽しく学べる 意外なところにある「物理」の法則・モノの動きから「物理」を理解しよう！・家電製品の「物理」なしくみを知る・ぼくらのインフラを支えている「物理」・もう一步、自然を深く理解するための「物理」・ミクロの世界から宇宙の果てまでの「物理」	外山先生
420	人生に必要な	あなたの？の答えがきっとある。物理を知ると毎日が楽しい	外山先生

	物理50 (ペイカー・ジョン)	運動する物体・波と電磁現象・量子の謎・原子を分割する・空間と時間	
471	ふしぎ植物学 (田中修)	草花や樹木、野菜たちの生き方は、思いがけない知恵と工夫に満ちている。虹色を見わけるレタスの種子や、活性酸素と闘うカーネーションの花びら、病原菌やカビから身を守るサクラの葉っぱ、時刻を正確に刻んで生まれるシソのつぼみなど、暮らして出会う植物の意外な生態を紹介する。そして「植物も汗をかくか」「動物に食べられても平気なのはなぜか」など、知っているようで知らない植物のふしぎな姿としくみに迫る	河野教頭
492	ナイチンゲールの看護覚え書き (金井一薫)	現代の看護に合わせた内容+たくさんのイラスト・図・表→一番わかる決定版！看護の原点・具体的な看護・病人の観察の基本・看護師とは何か	滑川先生
494	熱く生きる(天野篤)	日大医学部を卒業後、どこの医局にも属さずに、ひたすら腕を磨いてきた心臓外科医が、2012年2月、天皇陛下の心臓バイパス手術を執刀した。偏差値50もなかった三浪の時代を経て、あえて厳しい道を歩んだプロフェッショナルの「思いと情熱の磨き方」「人生の切り拓き方	松本先生
498	看護師が流した涙 (岡田久美)	病院というところでは、毎日多くの方が亡くなります。最愛の家族との最期のお別れの時、人はどんな涙を流したのでしょうか。幼い命を助けられなかった時、医療関係者はその衝撃をどのように受け止めるのでしょうか。本書では、その瞬間瞬間に立ち会ってきた現役のナースが、「家族愛」「人の温もり」が感じられる1冊。	滑川先生
585	紙つなげ！彼らが本の紙を造っている一再生・日本製紙石巻工場 (佐々涼子)	「8号(出版用紙を製造する巨大マシン)が止まるときは、この国の出版が倒れる時です」2011年3月11日、宮城県石巻市の日本製紙石巻工場は津波に呑みこまれ、完全に機能停止した。製紙工場には「何があっても絶対に紙を供給し続ける」という出版社との約束がある。しかし状況は、従業員の誰もが「工場は死んだ」と口にするほど絶望的だった。にもかかわらず、工場長は半年での復興を宣言。その日から、従業員たちの闘いが始まった	松本先生
596	料理の四面体 (玉村豊男)	英国式ローストビーフとアジの干物の共通点は？刺身もタコ酢もサラダである？アルジェリア式羊肉シチューからフランス料理を経て、豚肉のショウガ焼きに通ずる驚くべき調理法の秘密を解明する。火・水・空気・油の四要素から、全ての料理の基本を語り尽くした名著	湯上先生
596	幸福の食卓 (瀬尾まいこ)	大きなものをなくしてもまだあった大切なもので、とつても切なくて、ちょっとおかしくてあったまる。いま最注目の作家が放つ、心にふわりと響く長編小説。父さんが自殺を失敗したときも、母さんが家を出たときも、朝は普通にやってきた。そして、その悲しい出来事のあとも…。泣きたくなるのはなぜだろう	渡邊先生
645	命を救われた捨て犬「夢之丞」 (今西乃子)	泥にまみれて広島で救助活動を行った1匹の災害救助犬。夢之丞という名のその犬は殺処分寸前で救われた犬だった一殺処分直前に動物愛護センターから引き出された1匹の子犬。おくびょうで人をよせつけず、散歩すら苦手。食べ物への欲もなかったこの子犬は、やがて新米ハンドラーと共に訓練をこなして災害救助犬として新たな一歩をふみだした	図書室より
673	エンジェルフライト (佐々涼子)	異境の地で亡くなった人は一体どうなるのか。国境を越えて遺体を故国へ送り届ける仕事が存在する。どんな姿でもいいから一目だけでも最後に会いたいと願う遺族に寄り添い、一刻も早く綺麗な遺体を送り届けたいと奔走する「国際霊柩送還士」。彼らを追い、愛する人を亡くすことの悲しみや、死のあり方を真正面から見つめる異色の感動作	磯貝先生
723	生の深い淵から (木下晋)	102歳で吉川英治文化賞を受賞した瞽女(ごぜ)小林ハルさん、谷崎潤一郎の『痴人の愛』のモデル、放浪をつづけた母親など、人間の心の闇の部分、生きざまを見すえた「生の深い淵から漂うもの」を描き、エッセイにまとめる	稗田先生
726	国境のない生き方 (ヤマザキマリ)	14歳で欧州一人旅、17歳でイタリア留学。住んだところは、イタリア、シリア、ポルトガル、アメリカ。旅した国は数知れず。ビンボーも挫折も経験し、山も谷も乗り越えて、地球のあちこちで生きてきた漫画家をつくったのは、たくさんの本と、旅との出会いだった！	松本先生
726	おとぎ話の幼想挿絵 (海野弘)	想像力の翼を羽ばたかせて現実ではないどこかへ…。夢見る子どもだったあなたに贈る珠玉のファンタジーイラスト傑作撰	滑川先生
762	ピアニストという恋族がいる (千葉紘子)	音楽に魅入られたピアニストたちの、すべてが極端で、どこかおかしく、しかもやたらと大真面目な世界。ホロヴィッツ、ラフマニノフら巨匠たちの奇行、伝説、そして本邦ピアニストの草分け、幸田延と久野久の悲劇が、不思議な感動を呼ぶ	鶴沢先生
767	黄色いマンション 黒い猫 (小泉今日子)	小泉今日子と原宿——。そのふたつにどこか重なるものがあると感じた私たちは、原宿の街を彼女とともに歩いてみたいと思いました。本書は、さまざまな場所や人に出合いながら原宿の今昔を知り、自身の思い出に触れていく小泉今日子が、2007年から2016年まで9年間にわたって綴ったエッセイ集	橋本な先生
783	未到 奇跡の一年 (岡崎慎司)	「世紀の番狂わせ」「サッカー史上最大のサプライズ」…さまざまに形容されるプレミアリーグ、レスター・シティのリーグ制覇。「降格候補」だったチームはいかにして歴史的快挙を達成させたのか。ラニエリの知られざる「眼力」、ヴァーディ、マフレズの持つ特殊能力、チームスタッフの分析力、カンテ、ウジョア、インレル…各選手が発揮した技術やリーダーシップ。そして岡崎慎司がレスターにもたらしたものは…	永藤先生
802	世界の言葉で「ありがとう」ってどう言うの(池上彰)	3.11東日本大震災以後、多くの国から救援隊が来日。そうした人たちに、その国の言葉で「ありがとう」と言いたい。各国の言葉で「ありがとう」をどのように言うか、その国の文字でどう書くかを紹介	坂野先生
803	世界言語百科	数億人の話者がいる言語から、たった数人にしか使われていない言語、さらには絶滅してしまった言語まで、およそ6900の言語のうち1000を収録。美しい写真や地図とともに、地理・民族・歴史・社会・話者数・文字・言語特徴・基本語彙・借用語など、世界の言語を分かりやすく解説	図書室より
810	声に出して使いたい大和言葉 (齋藤孝)	日本の美しい言葉で、心は豊かになる。大和言葉350語を収録。大和言葉の6つの魅力・心に響く大和言葉・心を届ける大和言葉・心を包む大和言葉・心をつかむ大和言葉・心を彩る大和言葉	青澤先生
810	英語より日本語を	「読書立国」のすすめ。初等教育をこのまま放置すれば日本は土台から崩れる。	青澤先生

	学べ (竹村健一・齋藤孝)	日本は「読書立国」をめざせ・いま、教育の何が問題なのか？・日本語が豊かな文化を生み出す・東洋的身体技法を現代に生かす・文脈でコミュニケーション力を磨け・一瞬のひらめきを大切にしよう	
816	漂流郵便局 (久保田沙耶)	返事はないとわかっている、想いを伝えたい人—あなたにもいませんか？心をゆさぶる69通の手紙。瀬戸内の小さな島にある不思議な郵便局の物語	松本先生 図書室より
837	異邦人 (カミュ,アルベール)	母の死の翌日海水浴に行き、女と関係を結び、映画をみて笑いころげ、友人の女出入りに関係して人を殺害し、動機について「太陽のせい」と答える。判決は死刑であったが、自分は幸福であると確信し、処刑の日に大勢の見物人が憎悪の叫びをあげて迎えてくれることだけを望む。通常の論理的な一貫性が失われている男ムルソーを主人公に、理性や人間性の不合理を追求したカミュの代表作	木村早先生
908	白鯨 (ハーマン・メルヴィル)	灯油の原料を求めて大海に出た捕鯨船の船長エイハブの壮絶な白鯨との死闘。それを物語る唯一の生き残りの乗員イシュメールの魅力的な語り口。苛酷な宿命の下での自然と神、卑俗と聖性、博愛と弱肉強食等の混沌とした人間的葛藤の奥に、男だけの世界の濃密な関係が息づく。近代の文明の行き詰った危機に改めて注目される古典を朗唱にふさわしい平明な新訳とした文庫版	桑原先生
910	文車日記(田辺聖子)	古典の中から、著者が長年いつくしんできた作品の数々を、わかりやすく紹介し、そこに展開された人々のドラマを語るエッセイ集	飯田先生
911	詩のころを読む (茨木のり子)	いい詩には、人の心を解き放ってくれる力があります。また、生きとし生けるものへのいとおしみの感情をやさしく誘いだしてもくれます。この本では、長いあいだ詩を書き、多くの詩を読んできた著者が、心を豊かにしつづけている詩の中から、忘れがたい数々を選びだし、その魅力を情熱をこめて語ります	飯田先生
911	これもすべて 同じ一日(銀色夏生)	つるつと可愛い心に、サラッと涼しい体に、ほほ染めて純情詩集	滑川先生
913	鉄道員(浅田次郎)	まもなく廃線となる、北海道のとあるローカル線。その終着駅の駅長・佐藤乙松もまた、退職のときをむかえようとしていた。娘を亡くした日も、妻を亡くした日も、乙松は駅に立ちつづけた。そんな彼のもとに、ある日、小さな“訪問者”がやってきた…。表題作「鉄道員」のほか、お盆の夜に起こった“ある奇跡”を描いた作品「うらぼんえ」も収録。	木内校長
913	塩狩峠(三浦綾子)	結納のため札幌に向った鉄道職員永野信夫の乗った列車が、塩狩峠の頂上にさしかかった時、突然客車が離れ、暴走し始めた。声もなく恐怖に怯える乗客。信夫は飛びつくようにハンドブレーキに手をかけた…。明治末年、北海道旭川の塩狩峠で、自らの命を犠牲にして大勢の乗客の命を救った一青年の、愛と信仰に貫かれた生涯を描き、人間存在の意味を問う長編小説	木内校長 松本先生
913	春の夢(宮本輝)	亡き父の借財を抱えた大学生、井領哲之。大阪にあるホテルでのアルバイトに勤しむ彼の部屋には、釘で柱に打ちつけられても生きている蜥蜴の「キン」がいる。可憐な恋人とともに、人生を真摯に生きようとする哲之の憂鬱や苦悩、そして情熱を一年の移ろいのなかにながく、青春文学の輝かしい収穫	木内校長
913	ロスジェネの逆襲 (池井戸潤)	子会社・東京セントラル証券に出向した半沢直樹に、IT企業買収の案件が転がり込んだ。巨額の収益が見込まれたが、親会社・東京中央銀行が卑劣な手段で横取り。社内での立場を失った半沢は、バブル世代に反発する若い部下・森山とともに「倍返し」を狙う。	河野教頭
913	探偵ガリレオ (東野圭吾)	突然、燃え上がった若者の頭、心臓だけ腐った男の死体、池に浮んだデスマスク、幽体離脱した少年…警視庁捜査一課の草薙俊平が、説明のつかない難事件にぶつかったとき、必ず訪ねる友人がいる。帝都大学理工学部物理学科助教授・湯川学。常識を超えた謎に天才科学者が挑む	河野教頭
913	銀河鉄道の夜 (宮沢賢治)	祭りの日の夜、いじめられっ子のジョバンニは親友のカムパネルラとともに、銀河鉄道に乗って満点の星空を旅する。悲しくも美しい宮沢賢治の代表傑作！東京大学文芸サークルの現役学生による解説つきで、作品を120%楽しめる！表題作以外に、「雨ニモマケズ」「セロ弾きのゴーシュ」「双子の星」「よだかの星」「土神ときつね」を収録。	飯田先生
913	神の汚れた手 (曾野綾子)	夜明けに生誕があれば真昼には墮胎がある、その生と死のどちらにも手をかすのが産婦人科医だ。中絶手術の腕は名人級、無神論者だが、独特の倫理観をもつ一医師を主人公に、日々直面する数々の患者の実態を描いて、人間誕生の意味とその神秘を鋭く問う。著者の代表作といっても過言ではない感動的な長篇小説	木村早先生
913	風立ちぬ(堀辰雄)	重病に冒され、高原のサナトリウムで療養を続ける節子。婚約者である「私」は、美しい自然の中で、生と死に向き合いながら、献身的に節子を支える	木村早先生
913	海と毒薬(遠藤周作)	生きたままの人間を解剖する一戦争末期、九州大学附属病院で実際に起こった米軍捕虜に対する残虐行為に参加したのは、医学部助手の小心な青年だった。彼に人間としての良心はなかったのか？神を持たない日本人にとっての“罪の意識”“倫理”とはなにかを根源的に問いかける不朽の長編	木村早先生
913	沈黙(遠藤周作)	島原の乱が鎮圧されて間もないころ、キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル人司祭ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教のうめき声に接して苦悩し、ついに背教の淵に立たされる……。神の存在、背教の心理、西洋と日本の思想的断絶など、キリスト信仰の根源的な問題を衝き、〈神の沈黙〉という永遠の主題に切実な問いを投げかける長編	木村早先生
913	深い河(遠藤周作)	遠藤周作最後の、純文学書下し長篇小説は、病魔と闘いながら、魂と体力のすべてをかけて書かれた。『深い河』は遠藤周作の思考の行き着く果ての神についての、ひとつの結論であった。構想から執筆までの苦悩。壮絶な日々。書くこととは、神とは、を身をもって証明した著者の死後に発見された、感動の記録	木村早先生
913	こころ(夏目漱石)	先生と出会ったのは、学生時代、夏休みに訪れた鎌倉。自分も他人も信じられないと語り、親しくなっても頑なに心を開いてくれない先生は、裡に何かを抱えているようであった。その真相を私が知るのには、先生の自決後一。人間のエゴイズムと葛藤を克明に描いた名作	木村早先生

913	三四郎 (夏目漱石)	大学入学のために九州から上京した三四郎は東京の新しい空気の中で世界と人生について経験を重ねながら成長してゆく。一見何の変哲もない教養小説と見えるが、ここには一筋縄では行かぬ小説的企みがたっぷり仕掛けられているのだ	木村早先生
913	坊ちゃん(夏目漱石)	松山中学在任当時の体験を背景とした初期の代表作。物理学校を卒業後ただちに四国の中学に数学教師として赴任した直情径行の青年“坊っちゃん”が、周囲の愚劣、無気力などに反撥し、職をなげうって東京に帰る。主人公の反俗精神に貫かれた奔放な行動は、滑稽と人情の巧みな交錯となつて、漱石の作品中最も広く愛読されている。近代小説に勸善懲惡の主題を復活させた快作である	木村早先生
913	バッテリー (あさのあつこ)	「そうだ、本気になれよ。本気で向かってこい。一関係ないこと全部捨てて、おれの球だけを見ろよ」中学入学を目前に控えた春休み、岡山県境の地方都市、新田に引っ越してきた原田巧。天才ピッチャーとしての才能に絶大な自信を持ち、それゆえ時に冷酷なまでに他者を切り捨てる巧の前に、同級生の永倉豪が現れ、彼とバッテリーを組むことを熱望する。巧に対し、豪はミットを構え本気の野球を申し出るがー。	山本先生
913	エンジェル・エンジェル ・エンジェル (梨木香歩)	コウコは、寝たきりに近いおばあちゃんの深夜のトイレ当番を引き受けることで熱帯魚を飼うのを許された。夜、水槽のある部屋で、おばあちゃん不思議な反応を見せ、少女のような表情でコウコと話をするようになる。ある日、熱帯魚の水槽を見守る二人が目にしたものはなぜ、こんなむごいことに。コウコの嘆きが、おばあちゃんの胸奥に眠る少女時代の切ない記憶を呼び起こす	中村梨先生
913	必帖 源氏物語 翁－OKINA (夢枕獏)	美貌の貴公子・光の君の妻である葵の上に、妖しいものが取り憑く。六条御息所の生霊かと思われたが、どうやらそれだけではないらしい。並の陰陽師では歯がたたず、光の君はついに、外法の陰陽師・蘆屋道満に調伏を依頼するがー。「獣の首をした王が、黄金の盃で黄金の酒を飲みながら哭いているーこれ、なーんだ?」葵の上に憑いたものが出したこの謎々は、一体何を意味しているのか。いまだかつてない源氏物語が、幕をあける	中村梨先生
913	蒼穹の昴(浅田次郎)	汝は必ずや、あまねく天下の財宝を手中に収むるであろうー中国清朝末期、貧しき糞拾いの少年・春児は、占い師の予言を通じ、科挙の試験を受ける幼なじみの兄貴分・文秀に従って都へ上った。都で袂を分かち、それぞれの志を胸に歩み始めた二人を待ち受ける宿命の霸道	古市先生
913	夜のピクニック (恩田陸)	高校生活最後を飾るイベント「歩行祭」。それは全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通すという、北高の伝統行事だった。甲田貴子は密かな誓いを胸に抱いて歩行祭にのぞんだ。三年間、誰にも言えなかった秘密を清算するために。学校生活の思い出や卒業後の夢などを語りつつ、親友たちと歩きながらも、貴子だけは、小さな賭けに胸を焦がしていた	古市先生 小林先生
913	ソルハ (帚木蓬生)	1996年9月27日、アフガン政権崩壊。タリバンが首都カブールを制圧一生まれたときから戦争が日常の風景だった少女ビビは、初めてタリバンの厳しい監視下に置かれた生活を送ることに。ビビは何を決意し、生きる支えを持ち続けたのか。若い人へ向け、遺言の意を込めて放つ、渾身の一冊	寺口先生
913	永遠の0 (百田尚樹)	「娘に会うまでは死ねない、妻との約束を守るために」。そう言い続けた男は、なぜ自ら零戦に乗り命を落としたのか。終戦から60年目の夏、健太郎は死んだ祖父の生涯を調べていた。天才だが臆病者。想像と違う人物像に戸惑いつつも、一つの謎が浮かんでくる。記憶の断片が揃う時、明らかになる真実とは。涙を流さずにはいられない、男の絆、家族の絆	木村拓先生
913	潮騒 (三島由紀夫)	文明から孤絶した、海青い南の小島——潮騒と磯の香りと明るい太陽の下に、海神の恩寵あつて若くたくましい漁夫と、美しい乙女が奏でる清純で官能的な恋の牧歌。	鶴沢先生
913	女の日時計 (田辺聖子)	裕福な夙川の造り酒屋に嫁ぎ、穏やかで優しい夫と何不自由ない新婚生活を送る沙美子。気難しい姑と、我が侷な義理の妹との日々は、窮屈ではあったが、充実しているはずだった。あの青年が現れるまでは。きらびやかな筆致で綴られた、狂おしいほどの秘めたる恋の行方	鶴沢先生
913	見知らぬ明日 (小松左京)	「中国奥地で、なにか起っている…」新聞社に届いた一通のテレタイプは、中国・新疆ウイグル自治区に、宇宙人が攻撃をしかけてきたことを暗示するものだった。宇宙人襲来という、人類史上未曾有の事態に、米中ソの大国を中心とする国連は有効な解決策をなんら見出せない。「宇宙からの侵略」と「国際政治」という二つのテーマを融合させ、「人類の未来」に警鐘を発するSFの傑作	高橋先生
913	ぼくの大好きな青髭 (庄司薫)	月ロケット・アポロ11号の月着陸の夜、若者の夢を乗せた葦舟ラー号が沈んでいく。突然自殺を図った同級生高橋の「親友」として、熱気渦巻く真夏の新宿に飛び込んだ薫が知ったのは、若者の夢と挫折を待ち受けて消費し発展する現代社会の真相だった。そんな時代をなお愛し続けなければならないのか。「豊かな社会」へと向かう時代を、若者の切実な視点で描いた不朽の青春小説	高橋先生
913	竜馬がゆく (司馬遼太郎)	「薩長連合、大政奉還、あれア、ぜんぶ竜馬一人がやったことさ」と、勝海舟はいった。坂本竜馬は幕末維新史上の奇蹟といわれる。かれは土佐の郷土の次男坊にすぎず、しかも浪人の身でありながらこの大動乱期に卓抜した仕事をなした。竜馬の劇的な生涯を中心に、同じ時代をひたむきに生きた若者たちを描く長篇小説	中村朗先生
913	東京バンドワゴン (小路幸也)	明治から続く下町古書店“東京バンドワゴン”ちょっとおかしな四世代ワケあり大家族のラブ&ピース小説	中村朗先生
913	友情 (武者小路実篤)	脚本家野島と、新進作家の大宮は、厚い友情で結ばれている。野島は大宮のいとこの友人の杉子を熱愛し、大宮に助力を願うが、大宮に心惹かれる杉子は野島の愛を拒否し、パリに去った大宮に愛の手紙を送る。野島は失恋の苦しみに耐え、仕事の上で大宮と決闘しようと誓う	原澤先生
913	茜色の空 (辻井喬)	スマートとはいえない風貌に「鈍牛」「アーウー」と渾名された訥弁。だが遺した言葉は「環太平洋連帯」「文化の時代」「地域の自主性」等、21世紀の日本を見通していた。青年期から、大蔵官僚として戦後日本の復興に尽くした壮年期、総理大臣の座につくも権力闘争の波に翻弄され壮絶な最期を遂げるまでを描いた長篇小説	青澤先生
913	西の魔女が死んだ (梨木香歩)	中学に進んでまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女のもとで過した。西の魔女ことママのママ、つまり大	磯貝先生

		好きなおばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受けるのだが、魔女修行の肝心かなめは、何でも自分で決める、ということだった。	
913	舟を編む (三浦しをん)	出版社の営業部員・馬締光也は、言葉への鋭いセンスを買われ、辞書編集部に引き抜かれた。新しい辞書『大渡海』の完成に向け、彼と編集部の面々の長い長い旅が始まる。定年間近のベテラン編集者。日本語研究に人生を捧げる老学者。辞書作りに情熱を持ち始める同僚たち。そして馬締がついに会った運命の女性	磯貝先生
913	よろこびの歌 (宮下奈都)	著名なヴァイオリニストの娘で、声楽を志す御木元玲は、音大附属高校の受験に失敗、新設女子高の普通科に進む。挫折感から同級生との交わりを拒み、母親へのコンプレックスからも抜け出せない玲。しかし、校内合唱コンクールを機に、頑なだった玲の心に変化が生まれる。見えない未来に惑う少女たちが、歌をきっかけに心を通わせ、成長する姿を美しく紡ぎ出した傑作	磯貝先生
913	四十九日のレシピ (伊吹有喜)	妻の乙美を亡くし気力を失ってしまった良平のもとへ、娘の百合子もまた傷心を抱え出戻ってきた。そこにやってきたのは、真っ黒に日焼けした金髪の女の子・井本。乙美の教え子だったという彼女は、乙美が作っていたある「レシピ」の存在を伝えにきたのだった	磯貝先生
913	キネマの神様 (原田マハ)	39歳独身の歩は突然会社を辞めるが、折しも趣味は映画とギャンブルという父が倒れ、多額の借金が発覚した。ある日、父が雑誌「映友」に歩の文章を投稿したのをきっかけに歩は編集部採用され、ひょんなことから父の映画ブログをスタートさせることに。“映画の神様”が壊れかけた家族を救う、奇跡の物語	磯貝先生
913	死神の精度 (伊坂幸太郎)	CDショップに入りびたり、苗字が町や市の名前であり、受け答えが微妙にずれていて、素手で他人に触ろうとしない—そんな人物が身近に現れたら、死神かもしれません。一週間の調査ののち、対象者の死に可否の判断をくだし、翌八日目に死は実行される。クールでどこか奇妙な死神・千葉が会う六つの人生	磯貝先生
913	黄色い目の魚 (佐藤多佳子)	海辺の高校で、同級生として二人は出会う。周囲と溶け合わずイラストレーターの叔父だけに心を許している村田みのり。絵を描くのが好きな木島悟は、美術の授業でデッサンして以来、気がつくともみのりの表情を追っている。友情でもなく恋愛でもない、名づけようのない強く真直ぐな想いが、二人の間に生まれて—。16歳というもどかしく切ない季節を、波音が浚ってゆく	磯貝先生
913	下町ロケット (池井戸潤)	研究者の道をあきらめ、家業の町工場・佃製作所を継いだ佃航平は、製品開発で業績を伸ばしていた。そんなある日、商売敵の大手メーカーから理不尽な特許侵害で訴えられる。圧倒的な形勢不利の中で取引先を失い、資金繰りに窮する佃製作所。創業以来のピンチに、国産ロケットを開発する巨大企業・帝国重工が、佃製作所が有するある部品の特許技術に食指を伸ばしてきた。特許を売れば窮地を脱することができる。だが、その技術には、佃の夢が詰まっていた—。男たちの矜持が激突する感動のエンターテインメント長編	齋藤よ先生
913	宿命 (東野圭吾)	高校時代の初恋の女性と心ならずも別れなければならなかった男は、苦闘の青春を過ごした後、警察官となった。男の前に十年ぶりに現れたのは学生時代ライバルだった男で、奇しくも初恋の女の夫となっていた。刑事と容疑者、幼なじみの二人が宿命の対決を果すと、余りにも皮肉で感動的な結末が用意される	小林先生
913	告白 (湊かなえ)	「愛美は死にました。しかし事故ではありません。このクラスの生徒に殺されたのです」我が子を校内で亡くした中学校の女性教師によるホームルームでの告白から、この物語は始まる。語り手が「級友」「犯人」「犯人の家族」と次々と変わり、次第に事件の全体像が浮き彫りにされていく	小林先生
913	夢は逃げない (天降一太)	現在千葉県公立中学校校長である著者が、校内10分間読書用に書いた自伝的小説。背の低かった主人公・一太は、中学で剣道の道を志すが、先輩の陰湿ないじめを受ける。それでも自分に負けずに稽古に励み、ついには鹿児島県チャンピオンを破るまでに成長する。いじめに負けない強い心を作ろというメッセージを、ストレートに熱く面白く語る青春物語	藤森先生
913	麒麟の翼(東野圭吾)	「私たち、お父さんのこと何も知らない」。胸を刺された男性が日本橋の上で息絶えた。瀕死の状態ですこまで移動した理由を探る加賀恭一郎は、被害者が「七福神巡り」をしていたことを突き止める。家族はその目的に心当たりがない。だが刑事の一言で、ある人物の心に変化が生まれる。父の命懸けの決意とは	田邊先生
913	ただ栄光のためだけでなく(落合信彦)	世界を駆ける男たちに友情は成立するか—。“ザ・ギャンブラー”と恐れられたオイル・マン佐伯剛をめぐる男たちの出会いと友情、皮肉な運命のドラマを、壮大なスケールで描く	田邊先生
913	海賊と呼ばれた男 (百田尚樹)	一九四五年八月十五日、敗戦で全てを失った日本で一人の男が立ち上がる。男の名は国岡鐵造。出勤簿もなく、定年もない、異端の石油会社「国岡商店」の店主だ。一代かけて築き上げた会社資産の殆どを失い、借金を負いつつも、店員の一人も誅首せず、再起を図る。石油を武器に世界との新たな戦いが始まる	松本先生
913	穴 (小山田浩子)	仕事を辞め、夫の田舎に移り住んだ夏。見たことのない黒い獣の後を追ううちに、私は得体の知れない穴に落ちる。夫の家族や隣人たちも、何かがおかしい—。ごく平凡な日常の中に、ときおり顔を覗かせる異界	松本先生
913	村上海賊の娘 (和田竜)	和睦が崩れ、信長に攻め立てられる大坂本願寺。海路からの支援を乞われた毛利は村上海賊に頼ろうとした。その娘、景は海賊働きに明け暮れ、地元では嫁の貰い手のない悍婦で醜女だった	松本先生
913	約束の海(山崎豊子)	戦争とは？日本人とは？海上自衛隊の潜水艦と釣り船が衝突！若き士官を待ち受ける苛烈な日々。その父は昭和十六年、真珠湾に出撃し—。構想三十年、壮大なスケールで描く最後の長篇小説	松本先生
913	虹の岬の喫茶店 (森沢明夫)	トンネルを抜けたら、ガードレールの切れ目をすぐ左折。雑草の生える荒地を進むと、小さな岬の先端に、ふいに喫茶店が現れる。そこには、とびきりおいしいコーヒーとお客さんの人生にそっと寄り添うような音楽を選曲してくれるおばあさんがいた。彼女は一人で喫茶店を切り盛りしながら、ときおり窓から海を眺め、何かを待ち続けていた。その喫茶店に引き寄せられるように集まる人々—妻をなくしたばかりの夫と幼い娘、卒業後の進路に悩む男子大学生、やむにやまれぬ事情で喫茶店へ盗みに入った泥棒など一心に傷を抱えた彼らの人生は、その喫茶店とおばあさんとの出逢いで、変化し始める。心がやわらかさを取り戻す、	松本先生

		感涙の長編小説	
913	春の庭 (柴崎友香)	あの水色の家の中を覗いてみたい、人の女性の好奇心が、街に積もる時間と記憶の物語をひもといていく。鮮烈な文学のパノラマ	松本先生
913	スクラップ・アンド・ビルド (羽田圭介)	「早う死にたか」毎日のようにぼやく祖父の願いをかなえてあげようと、ともに暮らす孫の健斗は、ある計画を思いつく。日々の筋トレ、転職活動。肉体も生活も再構築中の青年の心は、衰えゆく生の隣で次第に変化して…。閉塞感の中に可笑しみ漂う、新しい家族小説の誕生	松本先生
913	下町ロケット2 (池井戸潤)	ロケットから人体へ一佃製作所の新たな挑戦！前作から5年。ふたたび日本に夢と希望と勇気をもたらすエンターテインメント長編	松本先生
913	羊と鋼の森 (宮下奈都)	ゆるされている。世界と調和している。それがどんなに素晴らしいことか。言葉で伝えきれないなら、音で表せるようになればいい。ピアノの調律に魅せられた一人の青年。彼が調律師として、人として成長する姿を温かく静謐な筆致で綴った、祝福に満ちた長編小説	松本先生
913	本日は、お日柄もよく (原田マハ)	OL二ノ宮こと葉は、想いをよせていた幼なじみ厚志の結婚式に最悪の気分で出席していた。ところがその結婚式で涙が溢れるほど感動する衝撃的なスピーチに出会う。それは伝説のスピーチライター久遠久美の祝辞だった。空気を一変させる言葉に魅せられてしまったこと葉はすぐに弟子入り。久美の教えを受け、「政権交代」を叫ぶ野党のスピーチライターに抜擢された！目頭が熱くなるお仕事小説	松本先生
913	蔵 (宮尾登美子)	新潟の蔵元である旧家・田乃内家に生まれた娘・烈は、小学校入学を前に失明にいたる病を患っていることを知る。過酷な運命を背負う烈と、その家族の愛と悲喜を綴った平成のロングセラー	滑川先生
913	恍惚の人 (有吉佐和子)	文明の発達と医学の進歩がもたらした人口の高齢化は、やがて恐るべき老人国が出現することを予告している。老いて永生きすることは果して幸福か？日本の老人福祉政策はこれでよいのか？一老齢化するにつれて幼児退行現象をおこす人間の生命の不可思議を凝視し、誰もがいずれば直面しなければならない“老い”の問題に光を投げかける	滑川先生
913	介護小説 最期の贈り物 (中島久美子)	徹三は、元大学教授。人格者として多くの人に慕われる存在だった。それがある日突然、帰る家を忘れ下着姿で街を徘徊するようになった…。痴呆のお年寄りをかかえる家族の地獄絵図。そして家族の崩壊。心の闇をかかえる孫の香子が、家族の再生に向け選んだ道は、徹三の心地よい「居場所」を見つけることだった。グループホーム介護を社会に開くことが、「居場所」探しのキーワードに。介護に関する情報を数多く盛り込み、お年寄りにとっても介護家族にとっても幸せな介護とは何かを探る感動の介護小説	滑川先生
913	博士の愛した数式 (小川洋子)	「ぼくの記憶は80分しかもたない」博士の背広の袖には、そう書かれた古びたメモが留められていた一記憶力を失った博士にとって、私は常に“新しい”家政婦。博士は“初対面”の私に、靴のサイズや誕生日を尋ねた。数字が博士の言葉だった。やがて私の10歳の息子が加わり、ぎこちない日々は驚きと歓びに満ちたもの変わった。あまりに悲しく暖かい、奇跡の愛の物語	橋本香先生
913	霊長類ヒト科 動物図鑑 (向田邦子)	父も母も、皆いきいきとしていた台風の日情景。歳月が思い出にはめこんだ、見なかったはずの絵の記憶。名乗った途端、電話口の声の様変わりする、女の声変わり。なじみの店ではない店に足を運ぶ、小さな浮気一優れた人間観察で人々の素顔を捉え、生の輝きを鮮やかに浮び上らせた、傑作揃いのエッセイ集	橋本香先生
913	手紙 (東野圭吾)	強盗殺人の罪で服役中の兄、剛志。弟・直貴のもとには、獄中から月に一度、手紙が届く…。しかし、進学、恋愛、就職と、直貴が幸せをつかもうとするたびに、「強盗殺人犯の弟」という運命が立ちのぼる苛酷な現実。人の絆とは何か。いつか罪は償えるのだろうか。犯罪加害者の家族を真正面から描き切り、感動を呼んだ不朽の名作	濱田先生
913	流星ワゴン (重松清)	死んじゃってもいいかなあ、もう…。38歳・秋。その夜、僕は、5年前に交通事故死した父子の乗る不思議なワゴンに拾われた。そして一自分と同一歳の父親に出逢った。時空を超えてワゴンがめぐる、人生の岐路になった場所への旅。やり直しは、叶えられるのか	濱田先生
914	どくとるマンボウ 青春記 (北杜夫)	18歳のマンボウ氏は、バンカラとカンゲキの旧制高校生活で何を考えたか。個性的な教師たちと大胆不敵な生徒たちが生み出す、独特の元気と喧騒に身をまかせながら、ひそかに文学への夢を紡いでいったかけがえのない日々は、時を経てなお輝き続ける。爆笑を呼ぶユーモア、心にしみいる抒情、当時の日記や詩を公開、若き日のマンボウ氏がいっぱいにつまった、永遠の青春の記録	高橋先生
914	われら動物みな兄弟	カエル、ウサギ、ネズミ等の珍奇な性、動物好きな研究仲間との交遊、四季の海と動物、八丈日記等、ムツゴロウの名で知られる著者の数多くの動物とのつきあいを通して、その生態を鋭く観察し、われら生きるものの愛と生命を暖かい目で描いた名エッセイ集	高橋先生
914	老いの才覚 (曾野綾子)	年の取り方を知らない老人が急増してきた！超高齢化の時代を迎える今、わがままな年寄こそ大問題。自立した老人になり人生を面白く生きるための7つの才覚の持ち方	青澤先生
914	絶叫委員会 (穂村弘)	町には、偶然生まれては消えてゆく無数の詩が溢れている。突然目に入ってきた「インフルエンザ防御スーツ」という巨大な看板、電車の中で耳にした「夏にフィーバーは暑いよね」というカップルの会話。ぼんやりしていると見過ごされてしまう言葉たち…。不合理でナンセンスで真剣だからこそ可笑的、天使的な言葉の数々	磯貝先生
914	置かれた場所で 咲きなさい (渡辺和子)	自分自身に語りかける・明日に向かって生きる・愛するということ Bloom where God has planted you. 置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。咲けない時は、根を下へ下へと降ろしましょう	田邊先生
914	職業としての小説家 (村上春樹)	「MONKEY」大好評連載の“村上春樹私的講演録”に、大幅な書き下ろし150枚を加え、読書界待望の渾身の一冊	松本先生
914	聞く力 (阿川佐和子)	頑固オヤジから普通の小学生まで、つい本音を語ってしまうのはなぜか。インタビューが苦手だったアガワが、1000人ちかい出会い、30回以上のお見合いで掴んだコミュニケーション術を初めて披露する	図書室より

916	世界の美しさを ひとつでも多く 見つけたい (石井光太)	ほんの少し視点を変えるだけで人生は輝く！世界がひっくり返るほどの感動をしたからこそ、なんとしてでも人にそれを伝えたい。その一心だけを胸に日本を飛び出し、スラム、事件現場、被災地など国内外様々な場所へ赴き、ひたすら現地で生きる人びとと交わり、その記録を生業にした作家が初めて綴った、革新的な人生訓。いかなる惨状の中でも必ず希望を見出し生き抜く人間の生命力から、これからの日本に必要なことを問う	山崎先生
916	学年ビリのギャルが 1年で偏差値を40 上げて慶應大学に現 役合格した話 (坪田信貴)	「死ぬ気で頑張るって、意外といいもんでした」一人の塾講師との出会いが、偏差値30の金髪ギャルとその家族の運命を変えた一坪田先生とさやかちゃんの1年半にわたる苦闘と慶應義塾大学現役合格までの奇跡をつづった、笑い涙の実話が待望の文庫化。単行本版からストーリー部分だけを抜き出した、物語を楽しみたいあなたへ贈る特別版。読んだらきっと「ゼッタイ無理」に挑んでみたくなる、勇気をもたらえる青春ストーリー	松本先生
916	命をつなげ！ ドクターヘリ (岩貞るみこ)	「ぜったいに、助ける！」そんな決意をのせて空を飛ぶのが、ドクターヘリ。一分一秒をあらそう救命救急の最前線で、医師、看護師はもちろん、オペレーター、消防隊、ヘリコプターの機長や整備士一ひとつの命を救うために、多くの人々がそれぞれのベストをつくし、奮闘する！新米医師の目をとおして、知られざる先端医療の世界を描くノンストップ・ノンフィクション	滑川先生
918	檸檬 ・城のある町にて (梶井基次郎)	私は体調の悪いときに美しいものを見る贅沢をしたくなる。しかし最近では馴染みの丸善に行くのも気が重い。ある日檸檬を買った私は、その香りや色に刺激され、丸善の棚に檸檬一つを置いてくる。現実には傷つき病魔と闘いながら、繊細な感受性を表した表題作	桑原先生
933	ロデリック (スラック・ジョン)	不世出の天才にして究極の異色作家スラックが遺した、ロボットSF最高傑作がついに邦訳。ロボットとは何なのか？ロボットと人間の差はどこにあるのか？ときに深淵に、ほとんど無節操に、スラップスティック全開で繰り広げられる、究極のロボット。	寺口先生
933	アルジャーニンに 花束を (ダニエル・キース)	幼児なみの知能のため、みんなからバカにされてきたチャーリー・ゴードン。頭がよくなる手術を受けた彼は、ついに天才へと変貌する一知を求めさまよう青年がやがて知る、ほんとうの愛とは？心の成長を描く不朽の名作	濱田先生
936	ボブという名の ストリートキャット (ホーエン・ジェームズ)	ロンドンでプロのミュージシャンを志したものの様々な困難に遭い路上生活者となった青年ジェームズ。人生に目的も目標も持てないままいつまでもヘロイン中毒から抜けだせずにいた。そんな彼の前に突然現れた、一匹の野良猫ボブ。ホームレスの青年と野良猫の友情物語	図書室より
949	ニルスの旅 (ラゲレブ・セルマ)	第1巻 (少年；ケブネカイセのアッカ；野鳥の生活；グリミングヒュース城；キュッラベリの大舞踏会 ほか) 第2巻 (カルとグローフェルの物語；美しい庭園；ナルケ地方；大解氷；遺産分け ほか)	堀江先生
953	赤と黒 (スタンダール)	製材小屋のせがれとして生れ、父や兄から絶えず虐待され、暗い日々を送るジュリヤン・ソレル。彼は華奢な体つきとデリケートな美貌の持主だが、不屈の強靱な意志を内に秘め、町を支配するブルジョアに対する激しい憎悪の念に燃えていた。僧侶になって出世しようという野心を抱いていたジュリヤンは、たまたま町長レーナル家の家庭教師になり、純真な夫人を誘惑してしまう	木村早先生
963	カモメに飛ぶことを 教えた猫 (ルイス・セプルベダ)	銀色のつばさのカモメ、ケンガーは、ハンブルクのとあるバルコニーに墜落する。そこには一匹の黒い猫がいた。名前はゾルバ。瀕死のカモメは、これから産み落とす卵をこの猫に託すことになる。が、その前に三つの厳粛な誓いをゾルバに立てさせるのだった	磯貝先生
983	ワグネル・ツグイッチの 一日 (ソルジェニ)	1962年の暮、全世界は驚きと感動で、この小説に目をみはった。当時作者は中学校の田舎教師であったが、その文学的完成度はもちろん、ソ連社会の現実をも深く認識させるものであったからである。スターリン暗黒時代の悲惨きわまる強制収容所の日を初めてリアルに、しかも時には温もりをこめて描き、酷寒(マローズ)に閉ざされていたソヴェト文学界にロシア文学の芸術作品	高橋先生
E	大きな木 (シュル・シルヴェスタイン)	幼い男の子が成長し、老人になるまで、温かく見守り続ける1本の木。木は自分の全てを彼に与えてしまいます。それでも木は幸せでした。無償の愛が心にしみる村上春樹訳の世界的名作絵本	齋藤よ先生
E	わすれられない おくりもの (スザン・バーレイ)	アナグマは、もの知りでかしく、みんなからとてもたよりにされていた。冬のはじめ、アナグマは死んだ。かけがえのない友を失った悲しみで、みんなはどうしていいかわからない…。友だちの素晴らしさ、生きるためのちえやくふうを伝えあっていくことの大切さを語り、心にしみる感動をのこす絵本	三浦先生
E	BADGER'S PARTING GIFTS	「わすれられないおくりもの」の英語版	三浦先生
E	牙なしゾウのレマ (滝田明日香)	アフリカでは15分に1頭、ゾウが殺されている事実を知っていますか？広大なサバンナで暮らすアフリカゾウのレマが、密猟によって親ゾウを失いつつも、たくましく生きていく姿を描いた絵本	坂野先生
E	つちはんみょう (舘野鴻)	1ミリにも満たない小さな幼虫をめぐる、決死の旅の道程を緻密かつ力強く描く。生態調査に7年を費やした、著者渾身の新作絵本	齊田先生
E	ぎふちょう(舘野鴻)	1年の寿命のうち約10ヶ月をさなぎとして過ごすギフチョウ。まわりの林で起こる生きものの営みを美しく緻密な絵本	齊田先生
E	しでむし(舘野鴻)	子育てをする虫・しでむしの一生を緻密で美しい絵で綴る絵本	齊田先生

